

	1.本日のセミナーに対する意見・感想	2. セミナーに対する今後の希望	3. 学会で取り組んでほしい活動	4. その他	5. 性別	6. 年齢	7. 職場	8. 職位
1	思ったより男性の参加が多く、少し意外でした。男性も考えているんですね。	現役(もしくはOBでも)活躍されている(もしくはかつて活躍された)女性研究者のお話を伺ってみたいです。苦労話や家庭との両立、今困っていることなど、テーマはなんでも。	女性の比率が低い現状で、積極的登用を推進すると、一部の女性に負担が集中するのではないかと思うのは、余計な心配でしょうか。	男性に対するハンディは、出産育児のみと思っています。その他に差は無いと思いますので、出産育児関連の問題をクリアしていけば、おのずと共同参画は実現するはずです。	女	41-45	研究機関	主任研究員
2	有意義なセミナーだと思います。以前から興味があった話題ですので、今後も取り組み等についてお話しただけるといいなと思います。		今後の学会でキャリアエクスプローラマークを要旨や発表時のパワーポイントなどに付けることは可能でしょうか、ということにも取り組んでいただけると助かります。	現在ポスドクは3年:長くて5年の任期で、それが終了すると次の職場を探さなければなりません。日本各地どこに行くかわからない状態で、いつ結婚するかとか、子供のこと等考えると、仕事か人生(大げさですが)かどちらかを選ばなければならないことがあるかもしれません。もう少し生活基盤がしっかりした職があるとうれいなのですが、若いうちにそのような職につくのは難しいです。	女	31-35	研究機関	ポスドク
3	吉田さんのパワーポイントが、よくまとまっていてわかりやすかったです。育種学会のHP等で見られるようにしていただけたら、各会員の所属する大学や研究機関に働きかけてゆくときの参考として、とても有効な資料だと思います。	今日のようにすべての学会参加者が参加可能な時間帯として、昼休み開催がよいと思います。そのうち"男女共同参画"関連でいくつか分科会がもてるようになったら素晴らしいですね。「私の中のジェンダー」とか、子育ての先輩から「こんなふうにして大変な時期をきりぬけた」などの体験をきくなどいかがでしょう?「男性研究者の子育て体験」などもきいてみたいです。	子育て支援や若い世代への政策はいろいろ進みつつあるようですが多くの研究者が(時に遠方に)老親をかかえています。介護が必要になると仕事との両立も至難の業です。(男女問わずに)そのあたりもなにか支援策が出来たらと思います。	委員の皆様、ごころうさまです。	女	46-50	大学	講師
4	このようなセミナーを開いて頂き、有り難うございます。		保育施設の斡旋は是非お願いします。		女	31-35	大学	助教
5	フリーディスカッション的に会を進行していたが、何か議題をしぼって討論を行った方が内容を深められたかと思う。				男	36-40	大学	講師
6	園芸学会では託児をできるので、育種学会にはないことに気づきませんでした。		保育施設。(特に大学の)男性研究者の啓もう。			41-45	研究機関	主任研究員
7	わかりやすくてよかったです。					46-50	研究機関	主任研究員
8	日頃ラボで働いている研究者は、どうしても社会で起きている現状がわからないことがあります。そこで少しでも多くの研究者が研究者をとりまわっている状況がわかるので、今後もセミナーを開催していただきたい。	現場で働く女性研究員の意見・現状を聞きたい。	学会でも補助金を募って、女性研究者へ科研投資してみる。	なし	男	31-35	研究機関	ポスドク
9	このようなセミナーは重要なことなので毎回やるのが良いと思います。	女性研究者の生の意見を聞きたいです。	保育施設の設置は無理でしょうか?ミニシンポ、研究集会も良いのではないのでしょうか?		男	46-50	大学	教授

10	啓蒙の意味では良かったか。もう少し具体的に女性研究者が問題と思っている例を示してほしい。		講演会における保育施設の斡旋、これは良い。		男	41-45	大学	准教授
11	現状が理解できて良かった。				男	51-55	大学	教授
12	弁当につられて参加しました。職場でも同じ問題があるのですが、学会で取り上げるのは良い試みだと思います。ただ「人数比」だけで「平等」を語るのは難しいと思います。「保育室」の設置は良いアイデアだと思います。				男	41-45	研究機関	グループ長
13	このような取り組みが身近にあったということ再認識した。男女差は扱いの差も大きいと思うが、根本的には教育の問題があると思う。すなわち女性の意識の問題もあると思い、これは教育によって改善されるべきである。	学生・院生の就職に関するセミナー	国家への圧力と対話		男	20-25		
14	外国あるいは学会内外における女性研究者の現状について考える良い機会となりました。			学会に所属している女性研究者がどのような事に困っているのかを具体的に情報交換できる機会があれば良いと思いました。	女	36-40	大学	講師
15	初めてこのようなセミナーに参加したが、改めてデータとして現状を見ると格差が理解できた。	実際に登用されている方の話を何名か聞いてみたい。	女性の積極的登用の推進。		女	26-30	大学	大学院生
16	学会自体でこうした取り組みができたことを、古い人間としては時代の流れとは云え、喜ばしいと思います。	女性の登用をはばんでいる要因(任用権を持つ男性の方々にとって)とは何なのか、育種分野で明らかにしていく議論を1回はやってほしい。	女性の積極的登用の推進のポジティブアクションをうながすよう、学会として決議できたらよいと思います。	考えつく種々なことをやって行ったらよいと思います。	女	61-65	大学	助教
17		日本での女性ブリーダー(研究者ではなく)の現状、統計データなどがどうなっているのか？わかれば知りたいです。	国、県、民間などで共同参画を取り入れてる所の具体的取り組みの紹介		女	46-50	企業	部長
18	まだ始まったばかりということで、上手に会員の興味を引きつつ、女性を支援する取り組みや制度の情報を効率的に伝える方法(できるだけ手間をかけずに)を考えることが、重要だと思います。	分子生物学会と同じような感じになってしまいますが学振のRPDのような復帰支援制度など、具体的な内容を伝えることで対象となりそうな女性をエンカレッジするような情報提供をしつこく続けることが案外効くのではないかと。	ホームページでの情報提供・発信。保育施設の斡旋は重要だと思います。女性の積極的登用の推進、これはまず登用される側の意識を高めるような活動を優先させるべきかと。ミニシンポジウムの開催は単独ではなく講演会で是非。	「育種」という仕事(分野)の特殊性のようなものを無視しては進められないように思います。一度これを考えてみる必要があると思います。	男	41-45	研究機関	主任研究員
19	思った以上に女性研究者の数が少ないことに驚きました。現状を知ることができて勉強になりました。参加者に男性が多かったことが意外でした。	女性研究者の就職状況について聞きたいです。	女性研究者の方と交流する機会、場をもうけてほしいです。	このようなセミナーをぜひまた開いていただきたいです。	女	20-25	大学	大学院生
20	これまであまり知らなかったデータ(外国と日本との女性研究者の現状など)を知る機会になりました。今後もこういったセミナーなどにできるだけ積極的に参加していきたいです。	これから大学を卒業していくような若い世代の就職に関する事。			女	20-25	大学	大学院生

21	学生にもっと参加させ、若い人にも意識をさせた方がよいと思う。今後、研究者をめざす女性には励みになると思います。				男	26-30	大学	大学院生
22	男女共同参画に取り組むことで育種学会としてどのようなメリットがあるのかがよくわからなかった。		若手の教育・交流会	男女共に若手は厳しい現状ですね。若手の頃から男女共にネットワークを広げる環境があればお互いのためになるのではないかと思います。	男	26-30	大学	ポスドク
23	女性研究者に子供が少ない事実を初めて認識した。		託児所設置に一定のニーズがあるなら積極的に考えるべき。	学会役員や座長への女性の登用の向上については、正直疑問を感じた。これらはボランティアあるいは雑用といった認識しか私にはなく、男女問わず本人にとってプラスになるかはケースバイケースではないか。所属する職場で学会業務に取り組めるだけの余裕が必要。	男	46-50	研究機関	グループ長
24	育種学会においてもこのような取り組みが始められたことはよいことと思う。若い研究者の就職が不安定なことは女性が研究者として残っていくかどうかということに大きな影響があると思う。				女	26-30	大学	技術員
25	第1回目としてはよかった。	他学会、中央組織の状況を知りたい。	要望、アンケート活動をやっていく等。財政基盤の確立を同時に。	どんなことを望むか？この世話を大切に。	男	56-60	大学	准教授
26	現在の日本の現状、育種学会の現状、全く知らなかったの、知るいい機会になりました。それから女性を役員や議長に登用する意義も”長い目で見て”という事でよくわかりました。		ポスドクのpermanent採用促進は、是非学会の声として国に働きかけてほしいと思いました。すごく優秀な人材が、不安定な立場で長期戦の研究を組めないのは、国家的にみてもマイナスだと思うので。		女	26-30	企業	一般社員
27	有意義であった。	情報をいろいろ教えていただきたい。	講演会における保育施設の斡旋と、それを制度的に利用しやすいものにするよう、国に働きかけてほしい。	お弁当は必要ないと思います。学会に参加しやすい季節、曜日を検討してほしい。	男	41-45	大学	准教授
28	男子学生としてはこの様な事を考える機会が少ないので大変参考になった。	学会の活動やその成果について。	アカデミックハラスメント等の各種ハラスメントの調査やその対策。	講演の部屋のスペースが狭く、入れない事もあった。	男	31-35	大学	大学院生
29	とにかくこれだけの方が集ったことは前向きでよかったと思います。	他学会の取り組みを紹介してもらえるようなテーマもあっていいと思います。	やれることは何でも。とまっていたは進まない。		男	46-50	研究機関	主任研究員 (兼教授)
30	初めての集会ですが大変良かった。女性研究者の現状がよくわかった。これから定期的にやって頂きたい。				男	46-50	大学	准教授
31	スライドの男女間の意識差という部分にはハッとするところがあった。直接男女参画と関わる部分ではないが、若い研究者の就職に対する学会の取り組みの部分で参考になるところがあった。	周知、認識することが大切だと思うのでこのような会が続くのは賛成です。女性研究者を取り巻く現実という部分について詳しく知りたいです。			男	20-25	大学	大学院生

32	皆さんの意識が高いと思いました。自分の周りには女性の研究者は少ないので考えることもありませんでした。		シンポジウム開催		男	20-25	大学	大学院生
33	男と女の意識の差をうめるのに役立つ	理系教育の取り組み	女性の積極的登用の推進		男	41-45	企業	課長
34	わかりやすい資料を見せていただけてよかった。私がつとめている大学でも中高女子理系推進の企画があり、資料を参考にさせていただきたいくらいだった。ホームページ等で公開していただくと有り難い。	良いことだと思うが、主催していらっしゃるメンバーがこのこと自体が負担にならないようにしていただきたい。女性のメンバーが中心になると思うが、是非男性の方にも積極的にメンバーになっていただきたい。	このようなセミナーの存続。保育施設の斡旋。女性の積極的登用の推進は、あくまで可能かどうかをきいてから。	中高女子理系推進では、女子生徒のみを集めて大学での実験体験などの企画があるようだが、このような企画が効果を上げるかどうか、疑問に思う。どのような企画がより効果的か知りたい。理系を目指す女子生徒が、研究者の道で女性でも十分やっていけるといふ事例を示すことは、大切だと思うが。	女	36-40	大学	助教